平成9年4月16日

豊島区外国人向け広報紙

外国人新スタッフ活動開始

１６日午前、加藤一敏豊島区長から、３名の外国人向け広報紙編集協力員に、委嘱状が手渡された。

１万３千人を超える外国人区民（外国人登録者）を抱える豊島区は、外国人向け広報紙として、平成元(1989)年より「ハローとしま（英語）」・「你好としま（中国語）」を発行しているが、
平成３（1991）年から、外国人向け広報紙の企画・編集に外国人の視点を加えようと、一般公募による編集協力員制度を設けている。

今年も、３月中旬に行われた面接の結果、蔣婷さん（しょう　てい・２６歳・中国・女性）、楊潔さん（よう　けつ・４４歳・中国・女性）、アーサー・ビナードさん（２９歳・アメリカ・男性）の３人が選ばれた。

蔣さんは、上海出身。母国では、大学卒業後、国際貿易センターに勤務、９５年、日本で経済を学びたいと来日し、現在、和光大学経済学部に在学中。日本の歌舞伎や芝居に興味がある。豊島区長崎在住。
「日中交流の懸け橋になりたい。高齢者問題や経済、環境問題に興味がある。勉強していきたい」

楊さんは、天津出身。母国では、国語教師として、中学校に勤務。９２年に来日して現在は、主婦のかたわら、自宅で中国語の個人指導を行っている。豊島区駒込在住。
「自分自身もっともっと日本の社会や政治、日本人を理解してみたい。外国の友人に日本の文化を伝えてみたい」

ビナードさんは、ミシガン州出身。大学の卒論の際、表意文字に出会い、魅惑されて９０年に来日。日本語での詩作、翻訳活動を始める。著作には、詩集『タイムレス』（小学館）、訳書には小熊秀雄『焼かれた魚』（透土社）などがある。豊島区池袋在住。
「池袋というと、とかく危険なイメージがあるが、池袋をテーマにした詩を紹介するなど、紙面を通して、自分の第二のふるさとである豊島を、面白く紹介できたらと思う」

などと、それぞれ抱負を語る。
委嘱式に続いて、早速編集会議が開かれ、６月号の紙面づくりへ向けて、活発な意見交換が行われた。来週早々には、楊さんが高齢者問題の取材を予定。日本で暮らす外国人の視点から、様々な切り口で、豊島区を、追う。

広報課では、「３人の方が、それぞれの個性を生かした視点で、区内在住の外国人に向け、様々な豊島区の表情を描いてもらえれば」と期待をよせている。

問合せ　広報課広報係

＜参　考＞

豊島区外国語版広報紙

発 行 日　隔月１５日（創刊　１９８９（平成元）年８月）

発行部数　英語版「ハロー・としま」　６，５００部
　　中国語版「你好・としま」　７，０００部

規　　格　Ｂ４版　・単色刷り

主な内容　・豊島区で暮らすための有益な情報
　　・日本の文化や生活習慣への知識
　　・日常生活に関する法律の解説・相談
　　・各種イベント情報・自主サークル案内　ほか
　　※英語・中国語とも同一内容

配布方法　区内各駅の広報スタンド、区施設窓口、区内公衆浴場・郵便局・ホテル、区内（隣接区も）日本語学校、民間交流団体、個人郵送（送料は利用者負担）など